

# 平成 22 年度 教育課程編成にあたって

## 中 特活

### 1 平成 22 年度に求められる取組

#### (1) 年間指導計画の作成

学級や学校の実態や生徒の発達の段階などを考慮した全体計画、各活動・学校行事の年間指導計画を作成する。学級活動については、学級ごとの指導計画も作成する。

#### (2) 配慮すべきこと

- ① 学級活動、生徒会活動の指導に当たっては、意見をまとめるなどの話し合い活動やきまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫する。
- ② 学校行事では、総合的な学習の時間との関連を図りながら、幼児、高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動を充実させる。

### 2 教育課程編成上、参考となる取組例

#### (1) 学年として作成する学級活動の年間指導計画例（第 1 学年）

月	段階	題材例	内 容 (17項目)			指導のねらい	主な活動のポイント
			(1)	(2)	(3)		
4 月	仲 間 意 識 を 時 数 4	中学生になって	○ ア			・中学校生活の概容を知り、中学生としての自覚を高める。	・中学生になったの「決意」の発表や…を話し合う。
		学級目標をつくらう	○ イ			・学級生活への思いや願いを発表し合い、学級としての目標をつくり、学級生活の向上を図る…	・いじめのない学級など、どのような学級を目指すかを話し合い、個々の思いを
		学級の組織をつくらう	○ イ			・理想とする学級像の実現を目指す	・係や当番などの意義を理

- ① 発達段階を記入することで段階を意識した指導ができる。
- ② 1 年間ですべての内容（共通事項(1)～(3)の 17 項目）を取り扱う。

司会者、参会者、提案者などの発達段階に応じた 9 年間の指導の目安を作成し、小中が連携して共通の目指す子供像をもって指導に当たると効果的である。

#### (2) 言語活動の充実(例)「話し合いの仕方」9 年間の指導系統表(小中連携)

《司会者》

○：取扱学年 ◎：定着学年

内 容	小学校						中学校		
	1	2	3	4	5	6	1	2	3
	意見交換・討議								
1 発言に対して不明な点を聞き返したり、整理して参会者に返したりする。「もう一度お願いします。」「○○さんは～と言っていますが、どうですか。」	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 同じ考えや似ている考え、違う考えなどの発言を促す。	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 発言が一つに偏ったとき、別の考えを促す。「～の考えが多いようですが、～についても意見を出してください。」			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4 話し合いの内容を焦点化する。「～についてもっと意見を出してください。」「～について詳しく話し合います。」			○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

### 3 教育課程編成上の Q&A

Q1 学級活動の 17 項目の内容に当てはまらない内容は、どのように扱えばよいか。

A1 学級活動の内容は 17 項目示してあり、いずれの学年においても取り扱わなければならない。この 17 項目以外でも、必要に応じて内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができる(学習指導要領第 5 章の第 3 の 2 の(2))。特に第 3 章道徳の第 3 の 1 の(3)に示された重点を踏まえた上で、学級活動の目標を達成するための効果が期待される場合には、学級活動の内容 17 項目に示されていない内容を加えて指導することも可能である。

Q2 評価について、現段階(2009. 11. 20)ではどのような検討がなされているか。

A2 ワーキンググループで、指導要録と併せて検討しているところである。様々な意見が出されているが、3 月までにはまとめる予定である。